

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 :理工学部 機械工学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・理工学部および機械工学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。	理工学部、機械工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 機械工学科 p.27～p.35	・理工学部および機械工学科の目的は、教育基本法 第7条、学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「東洋大学建学の精神」 ・「東洋大学の理念」 理工学部、機械工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 機械工学科 p.27～p.35	・理工学部および機械工学科の目的は、「東洋大学建学の精神」、「東洋大学の理念」に則り、また、理工学部および機械工学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・学部、学科教員組織表 ・東洋大学研究者情報データベース	・これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備の観点からみて、適切であるといえる。	B		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	理工学部、機械工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 機械工学科 p.27～p.35	・理工学部および機械工学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の諸機能を踏まえて、理工学部および機械工学科の個性特色を打ち出し設定されている。	S		
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	理工学部、機械工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 機械工学科 p.27～p.35 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部および機械工学科の目的を『履修要覧 2013』に記載して、学生および教職員に配布している。 ・理工学部および機械工学科の目的、教育目標はホームページに記載している。	S		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	JABEE認定証	・機械工学科では学科の目的の周知方法の有効性については、JABEEを受審することで定期的な検証を行っている。	S		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部、機械工学科の目的はホームページに記載している。	S		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	JABEE認定証	・機械工学科では学科の理念・目的の適切性については、JABEEを受審することで定期的な検証を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「理工学部教員資格審査内規」	・「東洋大学教員資格審査基準」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査内規」を定め、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・教務委員会議事録 ・機械工学科教室会議議事録 ・機械工学科内カリキュラム改訂に関する会議録	・理工学部教務委員会が、理工学部、各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・機械工学科では、学科会議において組織的な教育をするための教員間の連携を取っている。	S		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針(参考) ・学科ごとの教員移行計画表	・学科の専門分野を考慮した教員組織の編成方針、退職等に伴う中期的な補充枠などの内部資料はあるが、特に明文化していない。	B		
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・契約制英語講師の雇用に関する要項 ・年俸契約雇用制度に関する要綱 ・東洋大学助教に関する要綱	・学科としては特に定めていないが、理工学部の特色である学科横断型教育プログラム(副専攻)で任期制教員である助教(公募制の教育プログラム)を採用することにより、充実したプログラムの実施に活用している。 ・非常勤講師の任用については、特に明文化してはいないが、科目の特性に応じ、研究者のみならず実務家の委嘱も行なっている。また公正を期すため公募も導入している。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2 ・大学設置基準第13条 別表第1	・機械工学科では、学則定員150名(収容定員600名)に対して大学設置基準別表第一に定める教員数は11名であり、実際には教授7名、准教授9名、講師2名であるので合計14名であり、この基準を満たしている。	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・機械工学科では、教員数14名に対して教授7名となっており、半数を超えている。	A		
		20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・「大学基礎データ」表A	・～30歳: 2% ・31～40歳: 19% ・41～50歳: 24% ・51～60歳: 26% ・61～ : 29% ・概ね良いが、教員編成上30歳以下の教員採用(助教、助手)が難しい。	A		
		21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員人事補充計画のヒアリングについて ・教員補充枠申請書 ・大学専任教員採用の理事長面接について	・理工学部および学科では教員組織の編制方針を明文化していないが、学科の目的を実現する教員組織になるように、補充計画を立案し編制している。 (採用時に専門分野と共に年齢構成を考慮するよう申し合わせがされている)	B	理工学部として中期的な補充計画を作成中。	平成25年7月
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「理工学部教員資格審査委員会規程」 ・「理工学部資格審査議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・専任、非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、「理工学部教員資格審査委員会規程」の定めにより、理工学部資格審査委員会で審議・評価し、その結果を教授会で承認している。 ・「理工学部教員資格審査委員会規程」は理工学部の全専任教員に周知している。	S		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会規程」 「理工学部資格審査議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査委員会規程」を定め、理工学部資格審査委員会の審議を経て、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会規程」 「理工学部資格審査議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大学新任教員事前研修会プログラム 新任教員FD研修会プログラム 新任教員FD研修会アンケート結果 学外における研修会・講演会等の案内 http://www.toyo.ac.jp/fd/fdow_j.html 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における研修会やシンポジウムに参加することを推奨している。 理工学部の自己点検・評価活動の一貫として、各教員は研究業績、教育実績、社会貢献活動等を年度ごとに報告しているが、学部として取りまとめてそれぞれの成果を共有していない。 新任教員FD研修会プログラム、さらに新任教員アンケート調査を毎年実施してFD研修会の充実に図っている。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・制度検討委員会 第4次答申 学部長懇談会議事(H24.3.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価制度の取り組みは行っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学部／学科では改善方策を提示不能 理工学部として、7年間の研究業績から顕著な業績を残している先生に対して表彰制度を設けるよう計画している。 	平成25年12月

(4)教育内容・方法・成果

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」 ・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35	・理工学部および機械工学科において、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」を則り、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を明示している。	S		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	『履修要覧2013』 p.28 機械工学科 ディプロマポリシー ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	機械工学科ではディプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	『履修要覧2013』 p.28~29 機械工学科 ディプロマ・ポリシー 機械工学科 教育目標	機械工学科では学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	S		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	『履修要覧2013』 p.28 機械工学科 ディプロマポリシー	機械工ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	S		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35	機械工学科では、カリキュラム・ポリシーを設定している	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	『履修要覧2013』 p.28~29 機械工学科 カリキュラム・ポリシー 機械工学科 教育目標 機械工学科 ディプロマ・ポリシー	機械工学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。	S		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定を行っている。	S		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	履修要覧およびホームページに記載している。周知方法は有効である。	S		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしている。	S		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	JABEE認定証	機械工学科ではディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を恒常的にするために、定期的にJABEEを受審し、その認定を受けている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	理工学部 授業時間割表2013	主要な授業科目はすべて開講している。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 教育課程表 履修プラン	機械工学科では順序を守って履修すべき科目は各学年に体系的に配置し、連続性を持たない科目については選択科目に置いている。なお、選択科目にあっても、まったく学年指定のないもの、2年生以上を対象とするもの、3年生以上を対象とするものに分類している。	S		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35	基盤教育、理工学共通科目、専門科目に分け、それぞれの位置づけを明らかにしたうえで、それぞれに必要な単位数を規定している。	S		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 カリキュラムポリシー 教育課程表	学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている。具体的には1年次に数学、物理などの基礎学問を習得し、3年次に機械工学の基幹科目を中心に専門科目を学び、4年次にその学習成果を生かした卒業研究を行う。	S		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 カリキュラムポリシー 教育課程表 ・各科目のシラバス	学士課程教育に相応しい教育内容を提供している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 教育課程表	1年次に専門教育の概論の科目『機械工学の基礎と倫理』を配置することで、高大連携、専門教育への導入に関する配慮をしている。また、数学、物理、英語などの科目を履修させ、専門科目への準備を周到にできるよう配慮している。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 教育目標 教育課程表	機械工学科の基礎科目である。熱力学、流体力学、材料力学、機械力学、計測工学、制御工学は重点的な講義とみなし、実験や設計製図といった実験実習科目、コンピュータの演習などを組み合わせることで、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を設定している。理解度を高めるために演習科目をより増やすべきかどうか検討課題である。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	理工学部履修要覧2013 p.6	1セメスタあたりの履修登録単位数の上限を24単位(年間48単位)としている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	機械工学科 教育課程表 機械工学科 時間割	機械工学科の専門科目では2年生の基礎的な科目においては2クラスに分けることで、1クラスの人数を120名以下に抑えることで学修効果の向上を図っている。主体的参加を促すために講義に対応した演習科目を増やすべきかどうか検討中である。設計製図においては製図室を用意し、かつCADを受講生全員が同時に利用できる環境を整えている。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	機械工学科 カリキュラム・ポリシー 機械工学科 教育課程表	カリキュラム・ポリシーに従い、学習成果の修得を目指して、機械工学科の6基礎科目(熱力学、流体力学、材料力学、機械力学、計測工学、制御工学)をそれぞれI、IIと2科目ずつ配置し、Iの科目は初習時は2クラス、次学期では1クラス用意することで、1クラスの実習者数の制限を行うと同時に再履修者の対応もしている。おおむね目的は達成されているが、学生たちの学修効果については改善の余地がある。	A		
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス ・シラバス依頼文書	シラバスに、各講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・授業評価アンケート	全体としてはおおむねシラバスの通り実施されているが、シラバス全部をカバーしきれないケースが一部ある。	A		
3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス ・シラバス依頼文書	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合の割合や、成績評価基準を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 教育課程表	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されている。	S		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「川越キャンパス学年暦 2013」	・平成25年度は春、秋学期ともに15回の授業日程を設定している。 ・授業期間後に、休講措置として補講期間を1週間設定し、補講期間後に定期試験期間を1週間設定している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・理工学部履修要覧2013p.22・p.117~p.122 ・英語検定試験(TOEICテストによる単位認定) ・「理工学部教務委員会議事録」	・交換留学制度・認定留学制度を利用し、留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位の認定される。	S		

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会を開催し、学部FDについて研究を行うとともに、全学FD研修会を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	授業評価アンケートを毎学期末に実施し、学生の学修効果の測定を行うと共に、教員の授業改善にフィードバックしている。またFD研修会を開催し、教員の資質の向上や授業方法の勉強に取り組んでいる。が受講者は限られているのでそれを全教員に徹底することが課題である。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・授業評価アンケート ・新入生アンケート ・卒業生アンケート	毎学期末の授業評価アンケートの他、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	『履修要覧2013』 機械工学科の卒業要件 p.30	履修要覧に卒業要件を明示している。	S		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『履修要覧 2013』 機械工学科 p.27 ~ p.35 ディプロマポリシー 教育課程表	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧2013』 p.28 機械工学科 アドミッション・ポリシー	機械工学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧2013』 p.28 機械工学科 アドミッション・ポリシー	アドミッション・ポリシーは、理工学部、機械工学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしている。	S		
	61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧2013』 p.28 機械工学科 アドミッション・ポリシー	履修要覧・東洋大学ホームページの入試情報サイトに公開している。	S			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	入試方式別に、募集人員、選考方法を明示している。	S		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	入試方式別に、試験科目や選考方法を明示している。	S		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「全学入学試験委員会規程」 ・「理工学部教授会規程」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・全学入試委員会、理工学部教授会、理工学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。 ・専任教員による高校教員への説明会、高校訪問、模擬講義等を実施して、適切な学生募集を行っている。	S		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「大学基礎データ 表3」	・機械工学科では、一般入試他各入試方式では募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定している。	S		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表3」 ・過去5年間の平均	・機械工学科 : 1.18	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4」	・機械工学科 : 0.88	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	理工学部再編後募集していない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「理工学部入試委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・理工学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定、入学者数の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	アドミッション・ポリシー JABEE認定証	機械工学科では定期的にJABEEを受審し、アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証している。	S		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「全学入試委員会議事録」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・全学入試委員会および理工学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証、検討を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	学科課程表	基盤教育に「哲学・思想」の領域を設定し、哲学関係科目を配置している。できるだけ学生が履修できるよう開講コース数、時間割配置を考慮している。「東洋大学と井上円了」を新設。理工学部としての特色としては、「エンジニアのための哲学」を開講。	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ベイス大学研修報告書 ・学科課程表 ・教務委員会議事録	・独自の留学(ニューヨーク・ベイス大学)を実施 ・英語のみで授業を実施する「日本の文化と思考様式」「科学について英語で考える」を開講 ・TOEICテストの受験を授業と関連させるなど、受験する環境を整えている。 ・専門科目で英語を取り入れた授業実施を推進している。 ・英語学習支援室の開設。	A		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・学科課程表 ・シラバス	・社会人基礎科目分野を新設。「インターンシップ」の科目で事前に将来の就職活動にも繋がるキャリア教育を行っている。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100 (独自に設定してください)					
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101 (独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102 (独自に設定してください)					
		103					
		104					
		105					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 :理工学部 生体医工学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・理工学部および生体医工学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	理工学部、生体医工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 生体医工学科 p.37～p.44	・理工学部および生体医工学科の目的は、教育基本法 第7条、学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「東洋大学建学の精神」 ・「東洋大学の理念」 理工学部、生体医工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 生体医工学科 p.37～p.44	・理工学部および生体医工学科の目的は、「東洋大学建学の精神」、「東洋大学の理念」に則り、また、理工学部および生体医工学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・学部、学科教員組織表 ・東洋大学研究者情報データベース	・これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備の観点からみて、適切であるといえる。	B		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	理工学部、生体医工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 生体医工学科 p.37～p.44	・理工学部および生体医工学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の諸機能を踏まえて、理工学部および生体医工学科の個性特色を打ち出し設定されている。	S		
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	理工学部、生体医工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 生体医工学科 p.37～p.44 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部および生体医工学科の目的を『履修要覧 2013』に記載して、学生および教職員に配布している。 ・理工学部および生体医工学科の目的、教育目標はホームページに記載している。	S		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新生アンケート ・新生アンケート(結果) ・卒業生アンケート ・卒業生アンケート(結果) ・生体医工学科新生・卒業生アンケート ・生体医工学科新生・卒業生アンケート(結果)	・周知方法の有効性の検証として、新生アンケートと卒業生アンケートを実施している。ただ、アンケート結果からの改善に向けた取組の実現には至っておらず、今後組織的な検討が必要である。 ・生体医工学科として、独自の新生・卒業生アンケートを実施している。	B		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部、生体医工学科の目的はホームページに記載している。	S		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎にカリキュラムを見直すともに、毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の目的の適切性について、検証している。	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「理工学部教員資格審査委員会細則」	・「東洋大学教員資格審査基準」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査内規」を定め、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・教務委員会議事録 ・生体医工学科教室会議議事録 ・生体医工学科カリキュラム小委員会会議録	・理工学部教務委員会が、理工学部、各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・生体医工学科では、組織的な教育をするために教員間の連携体制をとっている。	S		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・「学科設置の趣旨等を記載した書類」 p.6「教員組織の編成の考え方及び特色」	・「学科設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」のp.6「教員組織の編成の考え方及び特色」に定められており、そのとおりになっている。	S		
		17	学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・契約制英語講師の雇用に関する要綱 ・年俸契約雇用制度に関する要綱 ・東洋大学助教に関する要綱	・学科としては特に定めていないが、理工学部の特色である学科横断型教育プログラム(副専攻)で任期制教員である助教(公募制の教育プログラム)を採用することにより、充実したプログラムの実施に活用している。 ・非常勤講師の任用については、特に明文化してはいないが、科目の特性に応じ、研究者のみならず実務家の委嘱も行っている。また公正を期すため公募も導入している。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2 ・大学設置基準第13条 別表第1	・生体医工学科では、専任教員定員を充足しており、欠員は生じていない。	A		
		※ 19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・生体医工学科では、専任教員の半数は教授となっている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	平成25年度 教員年齢構成表(5/1付)	【理工学部】 ・31～40歳: 17.2% ・41～50歳: 24.1% ・51～60歳: 32.2% ・61～ : 26.4% ・概ね良いが、教員編成上30歳以下の教員採用(助教、助手)が難しい。	A		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員人事補充計画のヒアリングについて ・教員補充枠申請書 ・大学専任教員採用の理事長面接について	・理工学部および学科では教員組織の編制方針を明文化していないが、学科の目的を実現する教員組織になるように、補充計画を立案し編制している。	B	理工学部として中期的な補充計画を作成中。	平成25年7月
	22	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備		専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「理工学部教員資格審査委員会細則」 ・「理工学部資格審査委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・専任、非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、「理工学部教員資格審査委員会規程」の定めにより、理工学部資格審査委員会で審議・評価し、その結果を教授会で承認している。 ・「理工学部教員資格審査委員会規程」は理工学部の全専任教員に周知している。	S	

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査委員会規程」を定め、理工学部資格審査委員会の審議を経て、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大学新任教員事前研修会プログラム 新任教員FD研修会プログラム 新任教員FD研修会アンケート結果 学外における研修会・講演会等の案内 http://www.toyo.ac.jp/fd/fdow_j.html 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における研修会やシンポジウムに参加することを推奨している。 理工学部の自己点検・評価活動の一貫として、各教員は研究業績、教育実績、社会貢献活動等を年度ごとに報告しているが、学部として取りまとめてそれぞれの成果を共有していない。 新任教員FD研修会プログラム、さらに新任教員アンケート調査を毎年実施してFD研修会の充実を図っている。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・制度検討委員会 第4次答申 学部長懇談会議事(H24.3.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価制度の取り組みは行っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学部／学科では改善方策を提示不能 理工学部として、7年間の研究業績から顕著な業績を残している先生に対して表彰制度を設けるよう計画している。 	平成25年12月

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『履修要覧 2013』 生体医工学科 p.37～p.44	・理工学部および生体医工学科において、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定め、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を明示している。	S		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 p.38 生体医工学科デイプロマ・ポリシー	・生体医工学科においてデイプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科デイプロマ・ポリシー 生体医工学科カリキュラムの特徴	・生体医工学科においてデイプロマ・ポリシーと教育目標は整合している。	S		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・『履修要覧 2013』 p.38 生体医工学科デイプロマ・ポリシー	・生体医工学科のデイプロマ・ポリシーには修得すべき学習成果が明示されている。	S		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科カリキュラム・ポリシー	・生体医工学科においてカリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科ディプロマ・ポリシー 生体医工学科カリキュラム・ポリシー 生体医工学科カリキュラムの特徴	・生体医工学科においてカリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーと教育目標に整合している。	S		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科カリキュラム・ポリシー 教育課程表	・カリキュラム・ポリシーに明記している「医療・社会環境の実現に貢献し得る広い視野と専門性を併せ持つ人材の養成」に対応して、「生体工学実験」「プロジェクト」を必修科目としている。	S		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを履修要覧と大学ホームページにて公開している。周知方法は有効である。	S		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを大学ホームページにて公開している。	S		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、4年ごとのカリキュラム改訂に合わせる形で検討・検証をおこなっている。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、検証している。	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかののみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・理工学部 授業時間割表 2013	・必修科目、選択必修科目、選択科目ともに、すべて開講している。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科 教育課程表 生体医工学科 履修プラン ・シラバス	・授業科目の難易度および内容に合わせ、配当学年を適切に設定すると共に、シラバス内に「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては履修に必要な条件等を記載している。	S		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・理工学部 履修要覧 2013 p.16～p.23, p.37～p.44	・履修要覧の冒頭において基盤教育と理工学共通科目の位置づけを、学科の教育課程欄において学科の専門教育の位置づけを明らかにしている。	S		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科 カリキュラム・ポリシー 生体医工学科 教育課程表	・教育課程はカリキュラム・ポリシーにおおむね従っており、学生の期待する成果の修得につながっている。	S		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科 教育課程表 ・シラバス	<p>・「学士力」に対応するために、以下のような授業科目で対応している。</p> <p>1.知識・理解 (1)多文化・異文化に関する知識の理解→「Technical English」 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解→「英語と文化」「ドイツ語と文化」等</p> <p>2.汎用的技能 (1)コミュニケーション・スキル→「プロジェクトⅠ～Ⅷ」 (2)数量的スキル→数学の諸科目、特に「確率統計基礎」 (3)情報リテラシー→「情報処理基礎」「情報処理基礎演習」「プログラミング」 (4)論理的思考力情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。→「プロジェクトⅠ～Ⅷ」 (5)問題解決力→「プロジェクトⅠ～Ⅷ」</p> <p>3.態度・志向性 (1)自己管理力→「プロジェクトⅠ～Ⅷ」 (2)チームワーク、リーダーシップ→「プロジェクトⅠ～Ⅷ」 (3)倫理観→「エンジニアのための哲学」「倫理学」等 (4)市民としての社会的責任→「社会学」等 (5)生涯学習力→「教養セミナーA～B」「総合A～B」</p> <p>4.統合的な学習経験と創造的思考力→「プロジェクトⅠ～Ⅷ」</p>	S		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 生体医工学科 教育課程表 ・シラバス	<p>・高大連携については、武蔵越生高校との高大連携活動に積極的に対応している。</p> <p>・専門教育への導入への配慮は、1年次に「生体工学序論」を開講し専門科目への動機づけを図ると共に、「生物の科学」「人体の科学」「機械工学」「解剖学」を1年次に開講することで、専門教育開始に必要なレベルの知識の獲得に努めている。</p>	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	『履修要覧 2013』 p.37～p.44 ・生体医工学科 カリキュラムの特徴 ・生体医工学科 教育課程表	・講義を基本としつつ、双方向性の必要な科目(「生体医工学実験Ⅰ」「同Ⅱ」)に関しては実験の形態を取っている。 ・体験型自律創造学習プログラム(PBL)を導入し、現実的・実践的な課題解決能力の向上を図っている。	S	
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	・理工学部 履修要覧 2013 p.6	・ Semester制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1 Semesterにつき24単位(年間48単位)に定めている。	A	
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・生体医工学科 教育課程表 ・シラバス	・体験型自律創造学習プログラム(PBL)を導入し、学生が自主的に課題を解決する能力を養うよう努めている。 ・講義科目の人数上限は設備の適正な収容人数を上回らないようにしている。	S	
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・生体医工学科 カリキュラム・ポリシー ・生体医工学科 教育課程表	・教育課程はカリキュラム・ポリシーにおおむね従っており、学生の期待する成果の修得につながっている。	S	
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス ・シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。また基幹科目(「プロジェクトⅠ～Ⅴ」など)については、複数教員によるチェックを行っている。	S	
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・授業評価アンケート結果	・「授業評価アンケート」における「シラバスの通り授業が進んでいるか」の回答は学科平均 4.25 (5点満点)であり、授業がシラバスに則って行われているといえる。	S	
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス ・シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。また基幹科目(「プロジェクトⅠ～Ⅴ」など)については、複数教員によるチェックを行っている。	S	
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・生体医工学科 教育課程表	・各授業科目の単位数は大学設置基準に従い、 講義科目: 半期15週で2単位 演習科目: 半期15週で2単位 実験・実習科目: 半期15週で1単位 卒業論文(医工学研究Ⅰ・Ⅱ、臨床工学研究Ⅰ・Ⅱ): 4単位を原則として、適切に設定している。	S	
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「川越キャンパス学年暦 2013」	・平成25年度は春、秋学期ともに15回の授業日程を設定している。 ・授業期間後に、休講措置として補講期間を1週間設定し、補講期間後に定期試験期間を1週間設定している。	A	
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・理工学部履修要覧2013p.22・p.117～p.122 ・英語検定試験(TOEICテストによる単位認定) ・「理工学部教務委員会議事録」	・交換留学制度・認定留学制度を利用し、留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位に認定される。	S	

4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会を開催し、学部FDについて研究を行うとともに、全学FD研修会を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」 ・生体医工学科新入生・卒業生アンケート ・生体医工学科新入生・卒業生アンケート(結果)	・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行っている。 ・生体医工学科として独自に新入生・卒業生アンケートを実施している。	S		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・授業評価アンケート ・新入生アンケート ・卒業生アンケート	・每学期末の授業評価アンケートの他、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『理工学部 履修要覧2013』 p.40	・履修要覧に卒業要件を明示している。 ・新入生ガイダンス、進級ガイダンスにおいても繰り返し周知している。	S		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『履修要覧 2013』 p.37～p.44 ディプロマ・ポリシー 卒業要件	・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行うことができる。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』 p.38 アドミッション・ポリシー	・アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』 p.38 アドミッション・ポリシー	・アドミッション・ポリシーは、学部・学科の教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準などが明示されている。	S		
	61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』 p.38 アドミッション・ポリシー	・履修要覧・東洋大学ホームページの入試情報サイトにて公開している。	S			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を受験生に明示している。	S		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、3教科においてバランスよく得点できる人材を求める基本方針に則り筆記試験を課し、推薦入試では、生体医工学科に特段の興味を有しかつ素がある者を求める方針に則り、面接試験や口頭試問を行っている。	S		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入学試験委員会規程」 ・「理工学部教授会規程」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会、理工学部教授会、理工学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。 ・専任教員による高校教員への説明会、高校訪問、模擬講義等を実施して、適切な学生募集を行っている。	S		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	・生体医工学科の入試方式において、募集定員の二倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド』	・入試方式や募集定員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	S		

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	【生体医工学科】 平成21年度:108/100 1.08 平成22年度:151/100 1.51 平成23年度:112/100 1.12 平成24年度:119/100 1.19 平成25年度:117/100 1.17 5年平均:1.21	C	毎年受入予定数を過去の入学人数・在籍学生数(予測)から1.20未満になるように厳密に設定している。過去3年間は是正しており、今後も同様に努力していく。	平成27年4月
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4」	【生体医工学科】 1.22	C	学科における収容定員に対する在籍学生数比率については、毎年在籍学生数予測から、入学者受入予定数を決定し、厳密に設定している。	平成26年4月
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	理工学部再編後募集していない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「理工学部入試委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・理工学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学人数策定、入学人数の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎のカリキュラム改訂時に合わせて検討している。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時にアドミッション・ポリシーの適切性について、検証している。	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「東洋大学入試委員会議事録」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会および理工学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証、検討を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・学科教育課程表 ・シラバス	・基盤教育に「哲学・思想」の領域を設定し、哲学関係科目を配置している。できるだけ学生が履修できるよう開講コース数、時間割配置を考慮している。「東洋大学と井上円了」を新設。理工学部としての特色としては、「エンジニアのための哲学」を開講。 ・生体医工学科として「科学哲学」を開講。	S		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ベイス大学研修報告書 ・学科教育課程表 ・教務委員会議事録 ・理工学部履修要覧2013pp.21-23	・独自の留学(ニューヨーク・ベイス大学)を実施 ・英語のみで授業を実施する「日本の文化と思考様式」「科学について英語で考える」を開講 ・TOEICテストの受験を授業と関連させ、e-learningを課題として与えるなど、受験する環境を整えている。 ・専門科目で英語を取り入れた授業実施を推進している。 ・英語学習支援室の開設。	S		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・学科教育課程表 ・シラバス ・学科キャリアガイダンス案内 ・就職キックオフセミナー案内 ・就職ガイダンスシリーズ12.pdf	・社会人基礎科目分野を新設。・人間関係の向上と学生生活を円滑に行い、キャリア形成の導入とした入学オリエンテーションにおいて、コミュニケーション講座を設けた。・各研究室と連携を図り、卒業後のキャリアについての個人カウンセリングとグループワークを導入し、来年度からの新しい学科オリジナルキャリア授業と支援の検討とした。 ・生体医工学科として「学科キャリアガイダンス」を6月に実施。 ・生体医工学科として「就職キックオフセミナー・懇親会」を12月に実施。	S		
2) 学部・学科独自の評価項目①	学生生活への配慮	100 新生入が学科に溶け込めるような工夫をしているか。	・生体医工学科・学科会議録 ・新生入歓迎会スケジュール表 ・生体新生入アンケート2013 ・H25新生入アンケート集計	・新生入オリエンテーション後に生体医工学科として新生入と全教員による歓迎会を実施。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	学生生活への配慮	101 学生が縦のつながりを持てるように工夫をしているか。	・生体医工学科・学科会議録 ・生体医工学科全学年交流会報告書2012年度.docx ・生体医工学科交流会のお知らせ(全員参加).docx	・生体医工学科の全学年の学生と全教員の参加による交流会を、6月に実施。	S		
4) 学部・学科独自の評価項目③	課外活動	102 学生にとって有益となるような課外活動の機会を提供しているか。	・理工学部英語教育説明資料H25 ・学生への配布資料(English Club, PADS, サイエンスジャーナル.pdf)	・無料英会話講習(木曜5限)を実施。 ・Presentation and Discussion Seminar (PADS) を実施 ・サイエンス・ジャーナルクラブを開講	S		
		103					
		104					
		105					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 :理工学部 電気電子情報工学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・理工学部および電気電子情報工学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	理工学部、電気電子情報工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 電気電子情報工学科 p.45～p.52	・理工学部および電気電子情報工学科の目的は、教育基本法 第7条、学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「東洋大学建学の精神」 ・「東洋大学の理念」 理工学部、電気電子情報工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 電気電子情報工学科 p.45～p.52	・理工学部および電気電子情報工学科の目的は、「東洋大学建学の精神」、「東洋大学の理念」に則り、また、理工学部および電気電子情報工学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・学部、学科教員組織表 ・東洋大学研究者情報データベース	・これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備の観点からみて、適切であるといえる。	A		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分業論も視野に入れて打ち出しているか。	理工学部、電気電子情報工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 電気電子情報工学科 p.45～p.52	・理工学部および電気電子情報工学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分業論における、「高度専門職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の諸機能を踏まえて、理工学部および電気電子情報工学科の個性特色を打ち出し設定されている。	S		
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	理工学部、電気電子情報工学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 電気電子情報工学科 p.45～p.52 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部および電気電子情報工学科の目的を『履修要覧 2013』に記載して、学生および教職員に配布している。 ・理工学部および電気電子情報工学科の目的、教育目標はホームページに記載している。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート ・新入生アンケート(結果) ・卒業生アンケート ・卒業生アンケート(結果) ・同窓会(総会)パンフレット	・周知方法の有効性の検証として、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。ただ、アンケート結果からの改善に向けた取組の実現には至っておらず、今後組織的な検討が必要である。 ・同窓会総会等で卒業生との意見交換の場を設定し、フィードバックできるように努めている。	B		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部、電気電子情報工学科の目的はホームページに記載している。	A		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎にカリキュラムを見直すとともに、毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の目的の適切性について、検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「理工学部教員資格審査委員会細則」	・「東洋大学教員資格審査基準」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査内規」を定め、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・教務委員会議事録 ・学科会議議事録	・理工学部教務委員会が、理工学部、各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・電気電子情報工学科では、教育に関する諸問題に対して、教務委員と学科長を中心に学科会議、および随時に会議を開催することで連携・調整を図っている。	A		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針(参考) ・学科ごとの教員移行計画表	・カリキュラム・ポリシーに示されているエネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の3分野の専門必修科目を担当できる専門分野の知識と経験を有する教員を採用対象とするが、さらに学科全体の年齢構成も考慮している。	A		
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・契約制英語講師の雇用に関する要綱 ・年俸契約雇用制度に関する要綱 ・東洋大学助教に関する要綱	・学科としては特に定めていないが、理工学部の特色である学科横断型教育プログラム(副専攻)で任期制教員である助教(公募制の教育プログラム)を採用することにより、充実したプログラムの実施に活用している。 ・非常勤講師の任用については、特に明文化してはいないが、科目の特性に応じ、研究者のみならず実務家の委嘱も行っている。また公正を期するため公募も導入している。	A		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2 ・大学設置基準第13条 別表第1	・電気電子情報工学科に割り当てられた専任教員枠は充足している。	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・電気電子情報工学科では、専任教員の半数は教授となっている。	A		
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	平成25年度 教員年齢構成表(5/1付)	・ ～30歳: 0% ・ 31～40歳: 17.2% ・ 41～50歳: 24.1% ・ 51～60歳: 32.2% ・ 61～ : 26.4% ・概ね良いが、教員編成上30歳以下の教員採用が難しい。	A			
	21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員人事補充計画のヒアリングについて ・教員補充枠申請書 ・大学専任教員採用の理事長面接について	・理工学部および学科では教員組織の編制方針を明文化していないが、学科の目的を実現する教員組織になるように、補充計画を立案し編制している。 ・電気電子情報工学科では次の基本方針に則り教員組織を編成している。カリキュラム・ポリシーに示されているエネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の3分野の専門必修科目を担当できる専門分野の知識と経験を有する教員を採用対象とするが、さらに学科全体の年齢構成も考慮している。	A	理工学部として中期的な補充計画を作成中。	平成25年7月	
22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「理工学部教員資格審査委員会細則」 ・「理工学部資格審査委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・専任、非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、「理工学部教員資格審査委員会規程」の定めにより、理工学部教員資格審査委員会で審議・評価し、その結果を教授会で承認している。 ・「理工学部教員資格審査委員会規程」は理工学部の全専任教員に周知している。	S			

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査委員会規程」を定め、理工学部教員資格審査委員会の審議を経て、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大学新任教員事前研修会プログラム 新任教員FD研修会プログラム 新任教員FD研修会アンケート結果 学外における研修会・講演会等の案内 http://www.toyo.ac.jp/fd/fdow_j.html 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における研修会やシンポジウムに参加することを推奨している。 理工学部の自己点検・評価活動の一貫として、各教員は研究業績、教育実績、社会貢献活動等を年度ごとに報告しているが、学部として取りまとめてそれぞれの成果を共有してはいない。 新任教員FD研修会プログラム、さらに新任教員アンケート調査を毎年実施してFD研修会の充実を図っている。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・制度検討委員会 第4次答申 学部長懇談会議事録(H24.3.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価制度の取り組みは行っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学部／学科では改善方策の提示は不能である。 理工学部として、7年間の研究業績から顕著な業績を残している教員に対して表彰制度を設けるよう計画している。 	平成25年12月

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52	・理工学部および電気電子情報工学科において、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定め、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を明示している。	S		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 ディプロマ・ポリシー	・電気電子情報工学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・『履修要覧 2013』p.46～p.48 電気電子情報工学科 教育目標 電気電子情報工学科 ディプロマ・ポリシー	・電気電子情報工学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	S		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 ディプロマ・ポリシー	・電気電子情報工学科のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	S		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー	・電気電子情報工学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー 電気電子情報工学科 教育目標 電気電子情報工学科 ディプロマ・ポリシー	・電気電子情報工学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。	S		
		科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー 電気電子情報工学科 教育課程表	・電気電子情報工学科では、カリキュラム・ポリシーの「技術革新に柔軟に対応でき、社会を担える技術者を輩出」に対応してエネルギー・制御、情報通信、エレクトロニクスの3分野を用意し、「電気回路」、「電子回路」、「電磁気学」、「コンピュータプログラミング」などの基幹科目を必修としている。 ・これら必修科目に対しては、十分な専門知識を修得するのに必要な単位数を考慮している。	S	
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・教職員・学生に対して、履修要覧で周知している。 ・電気電子情報工学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・電気電子情報工学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・「学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程」 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、4年ごとのカリキュラム改訂に合わせる形で検討・検証をおこなっている。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37 教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『理工学部 授業時間割表 2013』	必修科目、選択必修科目および選択科目は全て開講している。また、電気電子情報工学科カリキュラムの基幹科目である電気回路Aおよび電磁気学A(共に必修科目)については春および秋の両学期で開講している。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 教育課程表、履修プラン シラバス	・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては、履修に必要な条件等を記載している。学修すべき授業科目の順次性を考慮し、履修要覧に履修プランを掲載している。	S		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52	・『履修要覧』において、「基盤教育」「理工学共通科目」「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	S		
		40 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー 電気電子情報工学科 教育課程表	・教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、「エネルギー・制御」、「情報通信」、「エレクトロニクス」のそれぞれの3分野において、開講科目の順次性に配慮し学生に期待する学習成果の修得に繋がる編成としている。	S		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41 中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 教育課程表 該当科目 シラバス	・「学士力」に対応するために、「情報リテラシー」の育成については、「情報処理基礎」、「情報処理基礎演習」、「コンピュータプログラミングA、B」などの実習科目で対応している。 ・「チームワーク」の育成については、電気電子情報実験A、B、Cなどの実験科目において、グループで協力し合って実験に取り組むことにより対応している。 ・「問題解決力」の育成については、必修科目である「卒業研究I、II」において、創造的な研究に取り組ませることにより対応している。	S		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 教育課程表 ・「数学基礎演習A」「数学基礎演習B」「力学基礎」シラバス	・1年次に「数学基礎演習A」、「数学基礎演習B」、「力学基礎演習」を配置し、それぞれは初年度教育として位置づけ実施している。 ・高大連携科目として、1年次に「電気電子情報工学概論」を開講している。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実験)を適切に設定しているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 教育目標 電気電子情報工学科 教育課程表	・技術修得が必要な領域・分野については、「電気電子情報実験」などの実験科目、および「プログラミング」、「電気電子情報工学演習」などの実習・演習科目を適宜、配置している。	S	
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52	・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A	
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 教育課程表	・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、2年から3年次では「電気電子情報実験A」、「電気電子情報実験B」、「電気電子情報実験C」を必修とし、学生が主体的に実験に参加できるよう配慮している。 ・4年次の「卒業研究」では、学生が主体となって問題発見解決能力が育成されるよう配慮している。 ・入学当初の1年次春学期では、キャリア形成支援を目的とした「電気電子情報工学概論」を選択必修科目として開講している。	S	
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45～p.52 電気電子情報工学科 カリキュラム・ポリシー 電気電子情報工学科 教育課程表	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A	
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科長がシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	A	
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の設問は、肯定的な回答が多く、5段階評価で4.12であり、授業内容・方法とシラバスとの整合性を示している。	A	
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科長がシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	A	
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・電気電子情報工学科 教育課程表	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、講義科目: 半期15週で2単位 演習科目: 半期15週で1単位 実験・実習科目: 半期15週で1単位 卒業論文: 4単位を原則として、適切な単位数設定を行っている。	S	
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「川越キャンパス学年暦 2013」	・平成25年度は春、秋学期ともに15回の授業日程を設定している。 ・授業期間後に、休講措置として補講期間を1週間設定し、補講期間後に定期試験期間を1週間設定している。	A	
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・理工学部履修要覧2013p.22・p.117～p.122 ・英語検定試験(TOEICテストによる単位認定) ・「理工学部教務委員会議事録」	・交換留学制度・認定留学制度を利用し、留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位の認定される。	S	

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会を開催し、学部FDについて研究を行うとともに、全学FD研修会を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的な実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	・授業評価アンケートを毎学期実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、その結果を各教員にフィードバックしている。各教員はこれをもとに授業改善を行なっている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・授業評価アンケート ・新入生アンケート ・卒業生アンケート	・毎学期末の授業評価アンケートの他、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45~p.52	・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	S		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『履修要覧 2013』 電気電子情報工学科 p.45~p.52 電気電子情報工学科 ディプロマ・ポリシー 電気電子情報工学科 卒業要件	・卒業要件は、ディプロマ・ポリシーと整合しており適切に学位授与を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 アドミッション・ポリシー	・電気電子情報工学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 アドミッション・ポリシー	・電気電子情報工学科のアドミッション・ポリシーは、本学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	S		
	61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 アドミッション・ポリシー	・履修要覧・東洋大学ホームページの入試情報サイトに公開している。	S			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試NAVI2014』にて受験生に明示している。	S		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、「受験生に合った入試方法を選ぶ」という方針に則り、各種入試方式を用意している。 ・推進入試では、入学実績のある高校に指定校推薦入試制度を設けている。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入学試験委員会規程」 ・「理工学部教授会規程」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会、理工学部教授会、理工学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。 ・専任教員による高校教員への説明会を実施している。 ・高校からの要望により専任教員が当該高校に出張し、学科説明および模擬講義を実施している。 ・年3回(7月、8月、9月)のオープンキャンパスと年2回(3月、6月)の"学び"LIVE授業体験を実施している。 これらの活動を通して、適切な学生募集を行っている。	S		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	・電気電子情報工学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.46 電気電子情報工学科 アドミッション・ポリシー ・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・電気電子情報工学科では入試方式や募集人員、選考方法をおおむねアドミッション・ポリシーにある人材の養成に関する目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標に沿うよう対応させている。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	【電気電子情報工学科】 平成21年度:131/110 1.19 平成22年度:163/110 1.48 平成23年度:137/110 1.25 平成24年度:116/110 1.05 平成25年度:118/110 1.07 5年平均:1.21	C	毎年受入予定数を過去の入学人数・在籍学生数(予測)から1.20未満になるように厳密に設定している。過去3年間は是正しており、今後も同様に努力していく。	平成27年4月
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4」	【電気電子情報工学科】 1.20	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7~1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	理工学部再編後募集していない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「理工学部入試委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・理工学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学人数策定、入学人数の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎のカリキュラム改訂時に合わせて検討している。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時にアドミッション・ポリシーの適切性について、検証している。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「東洋大学入試委員会議事録」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会および理工学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証、検討を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	学科教育課程表	基盤教育に「哲学・思想」の領域を設定し、哲学関係科目を配置している。できるだけ学生が履修できるよう開講コース数、時間割配置を考慮している。「東洋大学と井上円了」を新設している。理工学部としての特色としては、「エンジニアのための哲学」を開講している。	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ベイス大学研修報告書 ・学科教育課程表 ・教務委員会議事録	・独自の留学(ニューヨーク・ベイス大学)を実施している。 ・英語のみで授業を実施する「日本の文化と思考様式」「科学について英語で考える」を開講している。 ・TOEICテストの受験を授業と関連させるなど、受験する環境を整えている。 ・専門科目で英語を取り入れた授業実施を推進している。 ・英語学習支援室を開設している。	A		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・学科教育課程表 ・シラバス	・社会人基礎科目分野を新設している。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100 (独自に設定してください)					
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101 (独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102 (独自に設定してください)					
		103					
		104					
		105					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 :理工学部 応用化学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・理工学部および応用化学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	理工学部、応用化学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 応用化学科 p.53～P.60	・理工学部および応用化学科の目的は、教育基本法 第7条、学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「東洋大学建学の精神」 ・「東洋大学の理念」 理工学部、応用化学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 応用化学科 p.53～P.60	・理工学部および応用化学科の目的は、「東洋大学建学の精神」、「東洋大学の理念」に則り、また、理工学部および応用化学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・学部、学科教員組織表 ・東洋大学研究者情報データベース	・これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備の観点からみて、適切であるといえる。	B		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	理工学部、応用化学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 応用化学科 p.53～P.60	・理工学部および応用化学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の諸機能を踏まえて、理工学部および応用化学科の個性特色を打ち出し設定されている。	S		
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	理工学部、応用化学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 応用化学科 p.53～P.60 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部および応用化学科の目的を『履修要覧 2013』に記載して、学生および教職員に配布している。 ・理工学部および応用化学科の目的、教育目標はホームページに記載している。	S		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート ・新入生アンケート(結果) ・卒業生アンケート ・卒業生アンケート(結果) ・同窓会(総会)パンフレット	・周知方法の有効性の検証として、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。ただ、アンケート結果からの改善に向けた取組の実現には至っておらず、今後組織的な検討が必要である。 ・同窓会総会等で卒業生との意見交換の場を設定し、フィードバックできるように努めている。	B		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部、応用化学科の目的はホームページに記載している。	A		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎にカリキュラムを見直すとともに、毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の目的の適切性について、検証している。	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「理工学部教員資格審査委員会細則」	・「東洋大学教員資格審査基準」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査内規」を定め、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・教務委員会議事録	・理工学部教務委員会が、理工学部、各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・応用化学科では教務委員会が、学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。	B		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針(参考) ・学科ごとの教員移行計画表	・学科の専門分野を考慮した教員組織の編成方針、退職等に伴う中期的な補充枠などの内部資料はあるが、特に明文化していない。	B		
		17 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・契約制英語講師の雇用に関する要項 ・年俸契約雇用制度に関する要綱 ・東洋大学助教に関する要綱	・学科としては特に定めていないが、理工学部の特色である学科横断型教育プログラム(副専攻)で任期制教員である助教(公募制の教育プログラム)を採用することにより、充実したプログラムの実施に活用している。 ・非常勤講師の任用については、特に明文化してはいないが、科目の特性に応じ、研究者のみならず実務家の委嘱も行なっている。また公正を期すため公募も導入している。	B		
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2 ・大学設置基準第13条 別表第1	・応用化学科に割り当てられた専任教員枠は充足している。	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・応用化学科では、専任教員の半数は教授となっている。	A		
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・平成25年度 教員年齢構成表(5/1付)	・31～40歳:17.2% ・41～50歳:24.1% ・51～60歳:32.2% ・61～ :26.4% ・概ね良いが、教員編成上30歳以下の教員採用(助教、助手)が難しい。	A			
	21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員人事補充計画のヒアリングについて ・教員補充枠申請書 ・大学専任教員採用の理事長面接について	・理工学部および学科では教員組織の編制方針を明文化していないが、学科の目的を実現する教員組織になるように、補充計画を立案し編制している。	B	理工学部として中期的な補充計画を作成中。	平成25年7月	
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「理工学部教員資格審査委員会細則」 ・「理工学部資格審査委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・専任、非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、「理工学部教員資格審査委員会規程」の定めにより、理工学部資格審査委員会で審議・評価し、その結果を教授会で承認している。 ・「理工学部教員資格審査委員会規程」は理工学部の全専任教員に周知している。	S		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査委員会規程」を定め、理工学部資格審査委員会の審議を経て、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大学新任教員事前研修会プログラム 新任教員FD研修会プログラム 新任教員FD研修会アンケート結果 学外における研修会・講演会等の案内 http://www.toyo.ac.jp/fd/fdow_j.html 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における研修会やシンポジウムに参加することを推奨している。 理工学部の自己点検・評価活動の一貫として、各教員は研究業績、教育実績、社会貢献活動等を年度ごとに報告しているが、学部として取りまとめてそれぞれの成果を共有していない。 新任教員FD研修会プログラム、さらに新任教員アンケート調査を毎年実施してFD研修会の充実を図っている。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・制度検討委員会 第4次答申 学部長懇談会議事(H24.3.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価制度の取り組みは行っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学部／学科では改善方策を提示不能 理工学部として、7年間の研究業績から顕著な業績を残している先生に対して表彰制度を設けるよう計画している。 	平成25年12月

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60	・理工学部および応用化学科において、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定め、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を明示している。	S		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.55 応用化学科のディプロマ・ポリシー ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・応用化学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.55・p.56 応用化学科のディプロマ・ポリシー・教育目標	・応用化学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.55 応用化学科のディプロマ・ポリシー ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・応用化学科のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	S		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.55 応用化学科のカリキュラム・ポリシー ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・応用化学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.55・p.56 応用化学科のカリキュラム・ポリシー・教育目標	・応用化学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。	S		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60	・学科では、カリキュラム・ポリシーの「多様化する社会ニーズに対応できる研究者・技術者の育成」に対応して、科目区分「基盤教育」「理工学共通科目」「専門科目」を用意し、化学の基幹科目を必修としている。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34 教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・教職員・学生に対して、履修要覧で周知している。 ・応用化学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
	社会への公表方法	35 受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・応用化学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36 教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、4年ごとのカリキュラム改訂に合わせる形で検討・検証をおこなっている。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 ・『2013年度 理工学部授業時間割表』	応用化学科では教育課程上、主要な授業科目はすべて開講している。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60	・応用化学の基礎となる必修科目理解を助けるための導入教育科目を1年次に配置、2～3年次には応用化学の幅広い先端的な専門知識を修得するための科目を配置している。学ぶべき専門分野がわかり易いように専門科目を3コースに分類している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60	理工学部および応用化学科では、基盤教育、理工学共通科目、専門教育の位置づけを明らかにしている。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・応用化学科の教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従っている。 ・応用化学科の教育課程は、学生に期待する学習成果の修得につながる内容となっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 応用化学科のディプロマ・ポリシー ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・「学士力」に対応するために、「多様な社会ニーズに対応できる技術者・研究者」の育成については、専門目群に「先端材料コース」「バイオ・健康化学コース」「環境化学コース」を設けて対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60	・応用化学の基礎となる必修科目理解を助けるための導入教育においては、高等学校で修得すべき内容を含めた授業が行われている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43 教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 応用化学科のカリキュラム・ポリシー	・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「レポート作成指導」「先端化学実験」等の演習・実験科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「有機化学実験」「無機化学実験」「物理化学実験」「生物化学実験」等の実習・実技科目を適宜、配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・『履修要覧 2013』 授業の履修について p.6	・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 応用化学科のカリキュラム・ポリシー ・『2013年度 時間割表 理工学部』	・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、4年次に、卒業研究を必修としている。 ・専門科目の必修科目の人数上限の目安は、60人としている。	A		
		46 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 応用化学科のカリキュラム・ポリシー	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス ・シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の回答は、肯定的な回答が95%であり、授業内容・方法とシラバスは整合している。	S		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス ・シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50 各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、講義科目:半期15週で2単位、演習科目:半期15週で2単位、実験・実習科目:半期15週で1単位、卒業論文:4単位を原則として、適切に設定している。	S		
		51 各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「川越キャンパス学年暦 2013」	・平成25年度は春、秋学期ともに15回の授業日程を設定している。 ・授業期間後に、休講措置として補講期間を1週間設定し、補講期間後に定期試験期間を1週間設定している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52 海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・理工学部履修要覧2013p.22・p.117～p.122 ・英語検定試験(TOEICテストによる単位認定) ・「理工学部教務委員会議事録」	・交換留学制度・認定留学制度を利用し、留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位の認定される。	S		

4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会を開催し、学部FDについて研究を行うとともに、全学FD研修会を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、冊子化して全教員に配付している。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・授業評価アンケート ・新入生アンケート ・卒業生アンケート	・每学期末の授業評価アンケートの他、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.57	・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	S		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『履修要覧 2013』 応用化学科 p.53～P.60 応用化学科のディプロマ・ポリシー	・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59	アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.55 応用化学科 アドミッション・ポリシー	・応用化学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.55 応用化学科 アドミッション・ポリシー	・応用化学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	61	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.55 応用化学科 アドミッション・ポリシー	・履修要覧・東洋大学ホームページの入試情報サイトに公開している。	A		

2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試NAVI2014』にて受験生に明示している。	A		
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、「教育目標を実現できる優秀な入学者をめれなく選抜する」という方針に則り、「B方式(センター利用)」「A①方式(川越会場)」「A②方式(全国)」「3月入試」としており、推薦入試では、「勉強意欲、目的意識と基礎能力を基準として選抜する」という方針に則り、「小論文」としている。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64	学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入学試験委員会規程」 ・「理工学部教授会規程」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会、理工学部教授会、理工学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。 ・専任教員による高校教員への説明会、高校訪問、模擬講義等を実施して、適切な学生募集を行っている。	S		
		※65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	・応用化学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.55 ・応用化学科 アドミッション・ポリシー ・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定している。	S		
3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系：理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	【応用化学科】 平成21年度：205/120 1.71 平成22年度：151/120 1.26 平成23年度：129/120 1.08 平成24年度：120/120 1.00 平成25年度：141/120 1.18 5年平均：1.24	C	毎年受入予定数を過去の入学人数・在籍学生数(予測)から1.20未満になるように厳密に設定している。過去3年間は是正しており、今後も同様に努力していく。	平成26年4月
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系：理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4」	・応用化学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.18となっている。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	理工学部再編後募集していない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「理工学部入試委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・理工学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学人数策定、入学人数の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎のカリキュラム改訂時に合わせて検討している。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時にアドミッション・ポリシーの適切性について、検証している。	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「東洋大学入試委員会議事録」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会および理工学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証、検討を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	学科教育課程表	基盤教育に「哲学・思想」の領域を設定し、哲学関係科目を配置している。できるだけ学生が履修できるよう開講コース数、時間割配置を考慮している。「東洋大学と井上円了」を新設。理工学部としての特色としては、「エンジニアのための哲学」を開講。	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ベイス大学研修報告書 ・学科教育課程表 ・教務委員会議事録	・独自の留学(ニューヨーク・ベイス大学)を実施 ・英語のみで授業を実施する「日本の文化と思考様式」「科学について英語で考える」を開講 ・TOEICテストの受験を授業と関連させるなど、受験する環境を整えている。 ・専門科目で英語を取り入れた授業実施を推進している。 ・英語学習支援室の開設。	A		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・学科教育課程表 ・シラバス	・社会人基礎科目分野を新設。	A		
2)学部・学科独自の評価項目①	国家資格取得などの支援の実施	100 授業時間外の学生活動の支援制度を設けているか。	・国家資格取得者の表彰制度	応用化学科として危険物取扱者(甲種)、環境計量士、公害防止管理者などの国家資格を取得した学生を表彰し、報奨金(図書券1万円)を授与している。	S		

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 理工学部 都市環境デザイン学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・理工学部および都市環境デザイン学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。	理工学部、都市環境デザイン学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 都市環境デザイン学科 p61～p.70	・理工学部および都市環境デザイン学科の目的は、教育基本法 第7条、学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「東洋大学建学の精神」 ・「東洋大学の理念」 理工学部、都市環境デザイン学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 都市環境デザイン学科 p61～p.70	・理工学部および都市環境デザイン学科の目的は、「東洋大学建学の精神」、「東洋大学の理念」に則り、また、理工学部および都市環境デザイン学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・学部、学科教員組織表 ・東洋大学情報データベース	・これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備の観点からみて、適切であるといえる。（専任教授7名、専任准教授2名、専任講師1名）	A		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	理工学部、都市環境デザイン学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 都市環境デザイン学科 p61～p.70	・理工学部および都市環境デザイン学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の諸機能を踏まえて、理工学部および都市環境デザイン学科の個性特色を打ち出し設定されている。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	理工学部、都市環境デザイン学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 都市環境デザイン学科 p61～p.70 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部および都市環境デザイン学科の目的を『履修要覧 2013』に記載して、学生および教職員に配布している。 ・理工学部および都市環境デザイン学科の目的、教育目標はホームページに記載している。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート ・新入生アンケート(結果) ・卒業生アンケート ・卒業生アンケート(結果) ・同窓会(総会)パンフレット	・周知方法の有効性の検証として、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。ただ、アンケート結果からの改善に向けた取組の実現には至っておらず、今後組織的な検討が必要である。 ・同窓会総会等で卒業生との意見交換の場を設定し、フィードバックできるように努めている。	B	・アンケート結果からの改善に向けた取組を実現化する。	平成26年6月
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部、都市環境デザイン学科の目的はホームページに記載している。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎にカリキュラムを見直すとともに、毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の目的の適切性について、検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「理工学部教員資格審査委員会細則」	・「東洋大学教員資格審査基準」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査内規」を定め、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・教務委員会議事録 ・教室会議議事録	・理工学部教務委員会が、理工学部、各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・都市環境デザイン学科では、必要に応じてコース演習、実験科目において少人数クラスで受講できるよう、担当教員による連携、調整を行っている。	A		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針(参考) ・学科ごとの教員移行計画表	・学科の専門分野を考慮した教員組織の編成方針、退職等に伴う中期的な補充枠などの内部資料はあるが、特に明文化していない。	B	・内部資料の明文化を検討する。	平成25年12月
		17	学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・契約制英語講師の雇用に関する要綱 ・年俸契約雇用制度に関する要綱 ・東洋大学助教に関する要綱	・学科としては特に定めていないが、理工学部の特色である学科横断型教育プログラム(副専攻)で任期制教員である助教(公募制の教育プログラム)を採用することにより、充実したプログラムの実施に活用している。 ・非常勤講師の任用については、特に明文化してはいないが、科目の特性に応じ、研究者のみならず実務家の委嘱も行なっている。また公正を期すため公募も導入している。	B	・方針の明文化を検討する。	平成25年12月
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2 ・大学設置基準13条 別表第1	・都市環境デザイン学科では、学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しており、学則変更時には適切な補充が行われている。	A		
		※19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・都市環境デザイン学科では、専任教員10名に対し、教授7名、准教授2名、講師1名となっている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	平成25年度 教員年齢構成表(5/1付)	・31～40歳:17.2% ・41～50歳:24.1% ・51～60歳:32.2% ・61～ :26.4% ・概ね良いが、教員編成上30歳以下の教員採用(助教、助手)が難しい。	A		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員人事補充計画のヒアリングについて ・教員補充枠申請書 ・大学専任教員採用の理事長面接について	・理工学部および学科では教員組織の編制方針を明文化していないが、学科の目的を実現する教員組織になるように、補充計画立案し編制している。 ・都市環境デザイン学科では、教員全員で認識を共有している。	B	理工学部として中期的な補充計画を作成中。	平成25年7月
	22	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備		専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「理工学部教員資格審査委員会細則」 ・「理工学部資格審査委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・専任、非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、「理工学部教員資格審査委員会規程」の定めにより、理工学部資格審査委員会で審議・評価し、その結果を教授会で承認している。 ・「理工学部教員資格審査委員会規程」は理工学部の全専任教員に周知している。	S	

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査委員会規程」を定め、理工学部資格審査委員会の審議を経て、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大学新任教員事前研修会プログラム 新任教員FD研修会プログラム 新任教員FD研修会アンケート結果 学外における研修会・講演会等の案内 http://www.toyo.ac.jp/fd/fdow_j.html 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における研修会やシンポジウムに参加することを推奨している。 理工学部の自己点検・評価活動の一貫として、各教員は研究業績、教育実績、社会貢献活動等を年度ごとに報告しているが、学部として取りまとめてそれぞれの成果を共有していない。 新任教員FD研修会プログラム、さらに新任教員アンケート調査を毎年実施してFD研修会の充実を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学科教員全員がFD推進の意義を共有し、資質向上に努める。 	平成26年3月
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・制度検討委員会 第4次答申 学部長懇談会議事録(H24.3.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価制度の取り組みは行っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学部／学科では改善方策を提示不能 理工学部として、7年間の研究業績から顕著な業績を残している先生に対して表彰制度を設けるよう計画している。 	平成25年12月

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70	・理工学部および都市環境デザイン学科において、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定め、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を明示している。	S		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.63 都市環境デザイン学科 デイプロマ・ポリシー	・都市環境デザイン学科において、デイプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	・『履修要覧 2013』p.63、p.64 都市環境デザイン学科 デイプロマ・ポリシー、教育目標	・都市環境デザイン学科の教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・『履修要覧 2013』p.63 都市環境デザイン学科 デイプロマ・ポリシー	・都市環境デザイン学科のデイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科 カリキュラム・ポリシー	・都市環境デザイン学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科 カリキュラム・ポリシー、教育目標、ディプロマ・ポリシー	・都市環境デザイン学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科 カリキュラム・ポリシー、教育課程表	・都市環境デザイン学科では、カリキュラムポリシーに基づいて、「都市環境コース」「都市創造コース」「都市経営コース」を設け、各コースの履修モデルプランを示している。また、それぞれに実験・演習科目を充実させ基礎力とその応用力を修得できる内容となっている。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・教職員・学生に対して、履修要覧で周知している。 ・都市環境デザイン学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・都市環境デザイン学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、4年ごとのカリキュラム改訂に合わせる形で検討・検証をおこなっている。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37 教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『理工学部 授業時間割表 2013』	必修科目、選択必修科目および選択科目は全て開講している。また、建築学科とともに横断型教育プログラム(副専攻)の「地域学コース」を選択することができる。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科教育課程表・履修プラン シラバス	・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては、履修に必要な条件等を記載している。学修すべき授業科目の順次性を考慮し、履修要覧に履修プランを掲載している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70	・『履修要覧』において、「基盤教育」「理工学共通科目」「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	A		
		40 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科 カリキュラム・ポリシー、教育課程表	・教育課程は、都市環境デザイン学科のカリキュラム・ポリシーに従い、「都市環境コース」、「都市創造コース」、「都市経営コース」に分けて、基礎力とその応用力を修得でき、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41 中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科教育課程表 該当科目 シラバス	・「学士力」に対応するために、「情報リテラシー」の育成については、「情報処理演習」、「情報処理基礎演習」、「地理情報システム」などの実習科目で対応している。 ・「チームワーク」の育成については、「都市環境デザイン学演習」、「都市環境コース演習」、「都市創造コース演習」、「都市経営コース演習」などの演習科目において、グループで協力し合って実験に取り組むことにより対応している。 ・「問題解決力」の育成については、必修科目である「卒業研究I、II」において、創造的な研究に取り組むことにより対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科 教育課程表 「数学基礎演習A」「数学基礎演習B」「力学基礎」シラバス	・1年次に「数学基礎演習A」、「数学基礎演習B」、「力学基礎」を配置し、それぞれは初年度教育として位置づけ実施している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61~p.70 都市環境デザイン学科 教育目標 都市環境デザイン学科 教育課程表	・技術修得が必要な領域・分野については、「水理土質実験」、「材料構造実験」、「都市環境実験」等の実験科目、および「測量学基礎・応用実習」などの実験・実習科目を適宜、配置している。	A	
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	・『履修要覧 2013』 授業の履修について p.6	・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A	
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61~p.70 都市環境デザイン学科 教育課程表	・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、1年次で「都市環境デザイン学概論」、2年次では「都市環境デザイン学演習」を必修、3年次では、「都市環境コース演習」、「都市創造コース演習」、「都市経営コース演習」を選択必修とし、学生が主体的に演習に参加できるよう配慮している。・4年次の「卒業研究」では、学生が主体となって問題点の発見や解決能力が育成されるよう配慮している。	A	
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61~p.70 都市環境デザイン学科 カリキュラム・ポリシー 都市環境デザイン学科 教育課程表	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A	
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。	A	
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の設問は、肯定的な回答が多く、授業内容・方法とシラバスとの整合性を示している。	A	
3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。	A	
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・都市環境デザイン学科 教育課程表	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、講義科目:半期15週で2単位 演習科目:半期15週で1単位 実験・実習科目:半期15週で1単位 卒業論文:4単位を原則として、適切に設定している。	S	
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「川越キャンパス学年暦 2013」	・平成25年度は春、秋学期ともに15回の授業日程を設定している。 ・授業期間後に、休講措置として補講期間を1週間設定し、補講期間後に定期試験期間を1週間設定している。	A	
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・理工学部履修要覧2013p.22・p.117~p.122 ・英語検定試験(TOEICテストによる単位認定) ・「理工学部教務委員会議事録」	・交換留学制度・認定留学制度を利用し、留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位の認定される。	S	

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会を開催し、学部FDについて研究を行うとともに、全学FD研修会を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	・授業評価アンケートを毎学期実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、その結果を各教員にフィードバックしている。各教員はこれをもとに授業改善を行っているが、この情報を共有する点においては不十分である。	B	・アンケート結果をフィードバックする方法について、FD推進委員会にて検討している。	平成25年9月
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・授業評価アンケート ・新入生アンケート ・卒業生アンケート	・毎学期末の授業評価アンケートの他、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。 ・卒業生評価は、同窓会懇親会等で聞き取り調査を行っている。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70	・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『履修要覧 2013』 都市環境デザイン学科 p.61～p.70 都市環境デザイン学科 ディプロマ・ポリシー 都市環境デザイン学科 卒業要件	・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.63 都市環境デザイン学科 アドミッション・ポリシー	・都市環境デザイン学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.63 都市環境デザイン学科 アドミッション・ポリシー	・都市環境デザイン学科のアドミッション・ポリシーは、本学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	S		
	61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.63 都市環境デザイン学科 アドミッション・ポリシー	・履修要覧・東洋大学ホームページの入試情報サイトに公開している。	S			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試NAVI2014』にて受験生に明示している。	S		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、「受験生に合った入試方法を選べる」という方針に則り、各種入試方式を用意している。 ・各種推薦入試では試験別に選考方法を明示している。	S		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入試試験委員会規程」 ・「理工学部教授会規程」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会、理工学部教授会、理工学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。 ・専任教員による高校教員への説明会、高校訪問、模擬講義等を実施して、適切な学生募集を行っている。	S		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	・各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
	66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.63 都市環境デザイン学科 アドミッション・ポリシー ・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・都市環境デザイン学科では入試方式や募集人員、選考方法を、おおむねアドミッション・ポリシーにある人材の養成に関する目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標に沿うよう対応させている。	S			

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	【都市環境デザイン学科】 平成21年度:95/80 1.19 平成22年度:131/80 1.64 平成23年度:88/80 1.10 平成24年度:85/80 1.06 平成25年度:119/100 1.19 5年平均:1.23	C	毎年受入予定数を過去の入学人数・在籍学生数(予測)から1.20未満になるように厳密に設定している。過去3年間は是正しており、今後も同様に努力していく。	平成27年4月
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	大学基礎データ表4	【都市環境デザイン学科】 1.24	C	学科における収容定員に対する在籍学生数比率については、在籍学生数予測から、入学受入予定数を決定し、厳密に設定している。	平成26年4月
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7~1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	理工学部再編後募集していない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「理工学部入試委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・理工学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学人数策定、入学人数の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4) 学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎のカリキュラム改訂時に合わせて検討している。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時にアドミッション・ポリシーの適切性について、検証している。 ・入試別の成績追跡調査を実施し、定期的に検証を行っている。	A		
		72	学生募集および入学選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「東洋大学入試委員会議事録」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会および理工学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証、検討を行っている。	S		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	学科教育課程表	基盤教育に「哲学・思想」の領域を設定し、哲学関係科目を配置している。できるだけ学生が履修できるよう開講コース数、時間割配置を考慮している。「東洋大学と井上円了」を新設。理工学部としての特色としては、「エンジニアのための哲学」を開講。	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ベイス大学研修報告書 ・学科教育課程表 ・教務委員会議事録	・独自の留学(ニューヨーク・ベイス大学)を実施 ・英語のみで授業を実施する「日本の文化と思考様式」「科学について英語で考える」を開講 ・TOEICテストの受験を授業と関連させるなど、受験する環境を整えている。 ・専門科目で英語を取り入れた授業実施を推進している。 ・英語学習支援室の開設。	A		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・学科教育課程表 ・シラバス	・社会人基礎科目分野を新設。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	学科独自の学習啓蒙	100 学生の学習意欲啓蒙活動を推進しているか。	大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・女子学生のサポート 女子学生数が1割を占めるようになり、円滑な大学生活を送るための人的ネットワーク形成の一助として、女子学生自らによって企画運営される「女子会」を学科としてサポートする体制を整えている。 ・1年生懇親会 5月に新入生を対象に毎年行っている催しである。大学生活を有意義かつ円滑なものとするために、履修方法に関する質問や大学生活に関する不安など、気楽に相談できる機会となっている。	A		
3) 学部・学科独自の評価項目②	学科独自のキャリア支援	101 キャリア支援を推進しているか。	大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・公務員試験対策講座 夏休みに、次年度に公務員試験を受験する意思のある3年生を対象に、学科教員が受験対策講座を開いて多くの効果を上げている。講義の内容は公務員試験受験対策に限らず、技術士1次試験や土木学会検定試験などの受験にも役立つ内容となっている。これとは別途に、4年生を対象に5～6月の1週間「公務員受験直前講座」も開講している。	S		
4) 学部・学科独自の評価項目③	学科独自の就職率向上への取り組み	102 就職率向上に取り組んでいるか。	大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・学科独自の「会社説明会」 就職支援室開催の説明会とは別途に、本学科に関係する官庁、建設会社、エンジニアリング、鉄道会社、住宅メーカー、補修会社、電力設備などの大手企業、県内企業約60団体参加の会社説明会を実施しており、就職率向上につながっている。	S		
5) 学部・学科独自の評価項目④	低学年へのキャリア教育	103 低学年にキャリア教育を行っているか	大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・学科独自の対話集会 学科同窓会の協力を得て、2・3年生対象の「対話集会」を開催している。さまざまな分野の第一線で活躍中の学科卒業生の方々に来ていただき、意見交換及び対話する機会を設け、低学年から就職に対する意識を明確化できるよう支援している。	S		
		104					
		105					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 :理工学部 建築学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・理工学部および建築学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	理工学部、建築学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 建築学科 p.71～78	・理工学部および建築学科の目的は、教育基本法 第7条、学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	S		
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「東洋大学建学の精神」 ・「東洋大学の理念」 理工学部、建築学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 建築学科 p.71～78	・理工学部および建築学科の目的は、「東洋大学建学の精神」、「東洋大学の理念」に則り、また、理工学部および建築学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・学部、学科教員組織表 ・東洋大学情報データベース	・これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備の観点からみて、適切であるといえる。	A		
		5	個性化への対応	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	理工学部、建築学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 建築学科 p.71～78	・理工学部および建築学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の諸機能を踏まえて、理工学部および建築学科の個性特色を打ち出し設定されている。	S	
2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	理工学部、建築学科の目的 ・『履修要覧 2013』 理工学部 p.3 建築学科 p.71～78 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html	・理工学部および建築学科の目的を『履修要覧2013』に記載して、学生および教職員に配布している。 ・理工学部および建築学科の目的、教育目標はホームページに記載している。	S		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート ・卒業生アンケート ・同窓会(総会)パンフレット ・学科ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/darc/	・周知方法の有効性の検証として、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。 ・同窓会総会等で卒業生との意見交換の場を設定し、フィードバックできるように努めている。	B	アンケート結果から得られる要改善点の組織的な検討を行う。	平成26年3月
	8	社会への公表方法	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/data/sce.html ・学科有志編集発行のフリーペーパー「#TOYOSEIZU」	・理工学部、建築学科の目的はホームページに記載している。また、フリーペーパーによる一般向け周知も行っている。	S		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎にカリキュラムを見直すとともに、毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の目的の適切性について、検証している。 ・毎年8月(専任教員対象)および2月(専任教員および設計製図系授業担当の非常勤講師対象)に、学科の目的の適切性について話し合う会議を設けている。	A		

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「理工学部教員資格審査委員会細則」	・「東洋大学教員資格審査基準」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査内規」を定め、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・教務委員会議事録	・理工学部教務委員会が、理工学部、各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・建築学科では、毎週教員による会議を開き教育に関する連絡や情報交換・共有を図っている。また、夏休み中に集中した会議を、春休み中には設計製図を担当する非常勤講師も含めた会議も開催し連携を深めている。	S		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針(参考) ・学科ごとの教員移行計画表	・学科の専門分野を考慮した教員組織の編成方針、退職等に伴う中期的な補充卒などの内部資料はあるが、特に明文化していない。	B	明文化を検討したい。	平成26年3月
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・契約制英語講師の雇用に関する要項 ・年俸契約雇用制度に関する要綱 ・東洋大学助教に関する要綱	・学科としては特に定めていないが、理工学部の特色である学科横断型教育プログラム(副専攻)で任期制教員である助教(公募制の教育プログラム)を採用することにより、充実したプログラムの実施に活用している。 ・非常勤講師の任用については、特に明文化してはいるが、科目の特性に応じ、研究者のみならず実務家の委嘱も行なっている。また公正を期すため公募も導入している。	B	非常勤講師採用方針の明文化を検討したい	平成26年3月
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充卒)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2 ・大学設置基準第13条 別表第1	・建築学科に割り当てられた専任教員数(教員補充卒)は充足している。	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・建築学科では、専任教員数16の内教授は10名で半数は教授となっている。	A		
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	平成25年度 教員年齢構成表(5/1付)	【理工学部】 ・31～40歳:17.2% ・41～50歳:24.1% ・51～60歳:32.2% ・61～ :26.4% ・概ね良いが、教員編成上30歳以下の教員採用(助教、助手)が難しい。	A			
	21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員人事補充計画のヒアリングについて ・教員補充卒申請書 ・大学専任教員採用の理事長面接について	・理工学部および学科では教員組織の編制方針を明文化していないが、学科の目的を実現する教員組織になるように、補充計画を立案し編制している。 ・建築学科では、教員組織の編成方針があり、教員全体で認識を共有している。	B	理工学部として中期的な補充計画を作成中。	平成25年7月	
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「理工学部教員資格審査委員会細則」 ・「理工学部資格審査委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・専任、非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、「理工学部教員資格審査委員会規程」の定めにより、理工学部資格審査委員会で審議・評価し、その結果を教授会で承認している。 ・「理工学部教員資格審査委員会規程」は理工学部の全専任教員に周知している。	S		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、理工学部内で、「理工学部教員資格審査委員会規程」を定め、理工学部資格審査委員会の審議を経て、教授会を通して理工学部全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学教員資格審査委員会規程」 「理工学部教員資格審査委員会細則」 「理工学部資格審査委員会議事録」 「理工学部教授会議事録」 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大学新任教員事前研修会プログラム 新任教員FD研修会プログラム 新任教員FD研修会アンケート結果 学外における研修会・講演会等の案内 http://www.toyo.ac.jp/fd/fdow_j.html 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における研修会やシンポジウムに参加することを推奨している。 理工学部の自己点検・評価活動の一貫として、各教員は研究業績、教育実績、社会貢献活動等を年度ごとに報告しているが、学部として取りまとめてそれぞれの成果を共有していない。 新任教員FD研修会プログラム、さらに新任教員アンケート調査を毎年実施してFD研修会の充実を図っている。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・制度検討委員会 第4次答申 学部長懇談会議事(H24.3.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価制度の取り組みは行っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学部／学科では改善方策を提示不能 理工学部として、7年間の研究業績から顕著な業績を残している先生に対して表彰制度を設けるよう計画している。 	平成25年12月

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『履修要覧 2013』 建築学科 p.73	・理工学部および建築学科において、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定め、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を明示している。	S		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.73 建築学科 ディプロマポリシー	・建築学科において、ディプロマポリシーを定めている。	A		
		29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.73, p.74 建築学科 ディプロマポリシー 建築学科 カリキュラムの特色	・建築学科の教育目標とディプロマポリシーは整合している。また、毎年9月末に「拡大学科会議」および2月末に「学科設計製図会議」を開催し、原則全専任教員(2月の設計製図会議では建築設計製図教育関連科目の非常勤講師も)出席のもとで、整合の確認を行っている。	S		
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.73 建築学科 ディプロマポリシー	・建築学科のディプロマポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	S		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.73 建築学科 カリキュラム・ポリシー	・建築学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.73, p.74 建築学科 カリキュラム・ポリシー 建築学科 ディプロマポリシー 建築学科 カリキュラムの特色	・建築学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。また、毎年9月末に「拡大学科会議」および2月末に「学科設計製図会議」を開催し、原則全専任教員(2月の設計製図会議では建築設計製図教育関連科目の非常勤講師も)出席のもとで、整合の確認を行っている。	S		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 カリキュラム・ポリシー 建築学科 教育課程表	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定を行っている。	S		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 ・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・教職員・学生に対して、履修要覧で周知している。 ・建築学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	B		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/sce/sce-policy.html	・各学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	S		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・学部等の研究教育上の目的の公表等に関する規程 ・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、4年ごとのカリキュラム改訂に合わせる形で検討・検証をおこなっている。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時に学科の教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、検証している。 ・毎年8月および2月に、教育目標などを検証する会議を設けている。	A		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『理工学部 授業時間割表 2013』	・必修科目はすべて開講している。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 教育課程表 ・シラバス	・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては、履修に必要な条件等を記載している。	S		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・理工学部 履修要覧 2013 p.16～p.23, p.71～p.78	・『履修要覧』において、「基盤教育」「理工学共通科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。また一級建築士受験資格に関わる履修条件も明確にして説明を徹底している。	S		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 カリキュラム・ポリシー 建築学科 教育課程表	・教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。この点については、当学科の特徴たる「必修科目としての建築設計製図教育関連科目などにおける学生への直接個別指導」の機会を通じて、学生へのヒアリングなどを行い、確認作業を恒常的に行っている。	S		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス	・「学士力」に対応するために、1年から建築設計製図に関わる実習科目を体系的に配置し、卒業設計、卒業論文に至る教育の流れの中で、社会、人間、文化の理解、プレゼンテーションによるコミュニケーションスキルの養成、チームワーク等総合的な創造的思考力を育成している。	S		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮（初年次教育、導入教育の実施等）を行っているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 教育課程表 ・「建築概論」「建築製図基礎演習」シラバス	・1年次に「建築概論」「建築製図基礎演習」を配置し、専門教育への導入教育と位置づけている。	S		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 カリキュラムの特色 建築学科 教育課程表	・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「設計・製図演習」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「構造・材料実験」「環境設備実験実習」等の実習・実技科目を適宜、配置している。	S		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	・理工学部 履修要覧 2013 p.6	・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 教育課程表	・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、3年次(プレゼミ)より4年次まで、少人数によるゼミナールを行っている。	S		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 カリキュラム・ポリシー 建築学科 教育課程表	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながるバランスの良いものとなっている。	S		
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	S		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	・「学生による授業評価調査」の設問の「授業はシラバスに沿っていたと思いますか」の回答は、「はい」が54.8%、「ややはい」が28.7%と肯定的な回答が計83.5%であり、概ね授業内容・授業方法とシラバスは整合している。	A		
3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス シラバス依頼文書	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	S		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・学科 教育課程表	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目:半期15週で2単位 演習科目:半期15週で2単位 実験・実習科目:半期15週で1単位 卒業論文:4単位 を原則として、適切に設定している。	S		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「川越キャンパス学年暦 2013」	・平成25年度は春、秋学期ともに15回の授業日程を設定している。 ・授業期間後に、休講措置として補講期間を1週間設定し、補講期間後に定期試験期間を1週間設定している。	S		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・理工学部履修要覧2013p.22・p.117～p.122 ・英語検定試験(TOEICテストによる単位認定) ・「理工学部教務委員会議事録」	・交換留学制度・認定留学制度を利用し、留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位数に認定される。	S		

4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会を開催し、学部FDについて研究を行うとともに、全学FD研修会を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「理工学部FD委員会議事録」	・理工学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、冊子化して全教員に配付している。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・授業評価アンケート ・新入生アンケート ・卒業生アンケート	・每学期末の授業評価アンケートの他、新入生アンケートと卒業生アンケートを実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78	・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	S		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『履修要覧 2013』 建築学科 p.71～p.78 建築学科 ディプロマ・ポリシー 建築学科 卒業要件	・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.73 建築学科 アドミッション・ポリシー	・建築学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.73 建築学科 アドミッション・ポリシー	・建築学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	S		
	61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ ・『履修要覧 2013』p.73 建築学科 アドミッション・ポリシー	・履修要覧・東洋大学ホームページの入試情報サイトに公開している。	S		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド』および大学ホームページにて受験生に明示している。	S		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、「受験生にあった入試方法を選ぶことができる」かつ「学科の教育に不足のない学力を有しているか判断する」という方針に則り、各種の入試方式を用意している。推薦入試では、「入学実績のある高校から学力、人物とも優れている高校生を選抜してもらおう」という方針に則り、指定校推薦入試制度を設けている。また、「総合的な学力と勉学意欲のある人物を希望する」という方針に則り、自己推薦とAO入試の入試方式を設けている。	S		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入学試験委員会規程」 ・「理工学部教授会規程」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会、理工学部教授会、理工学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。 ・専任教員による高校教員への説明会、高校訪問、模擬講義等を実施して、適切な学生募集を行っている。	S		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	・建築学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・『履修要覧 2013』p.73 建築学科 アドミッション・ポリシー ・入試NAVI2014 ・大学ホームページ 入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定しており、建築学科のカリキュラム・ポリシーに沿った人材育成に相応しい人物を選考できるようにしている。	S		

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(理工学部)	【建築学科】 平成21年度:188/140 1.34 平成22年度:162/140 1.16 平成23年度:183/140 1.31 平成24年度:156/140 1.11 平成25年度:182/140 1.30 5年平均:1.24	C	毎年受入予定数を過去の入学者数・在籍学生数(予測)から1.20未満になるように厳密に設定している。過去3年間は是正しており、今後も同様に努力していく。	平成26年4月
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	大学基礎データ表4	【建築学科】 1.21	C	学科における収容定員に対する在籍学生数比率については、在籍学生数予測から、入学者受入予定数を決定し、厳密に設定している。	平成26年4月
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ 表4」	理工学部再編後募集していない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「理工学部入試委員会議事録」 ・「理工学部教授会議事録」	・理工学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定、入学者数の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・各年度の履修要覧の3つのポリシー	・4年毎のカリキュラム改訂時に合わせて検討している。 ・毎年、次年度の履修要覧執筆時にアドミッション・ポリシーの適切性について、検証している。 ・毎年8月および2月に、アドミッションポリシーなどを検証する会議を設けている。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「東洋大学入試委員会議事録」 ・「理工学部入試委員会議事録」	・東洋大学入試委員会および理工学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証、検討を行っている。	S		

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	学科教育課程表	基盤教育に「哲学・思想」の領域を設定し、哲学関係科目を配置している。できるだけ学生が履修できるよう開講コース数、時間割配置を考慮している。「東洋大学と井上円了」を新設。理工学部としての特色としては、「エンジニアのための哲学」を開講。	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・ベイス大学研修報告書 ・学科教育課程表 ・教務委員会議事録	・独自の留学(ニューヨーク・ベイス大学)を実施 ・英語のみで授業を実施する「日本の文化と思考様式」「科学について英語で考える」を開講 ・TOEICテストの受験を授業と関連させるなど、受験する環境を整えている。 ・専門科目で英語を取り入れた授業実施を推進している。 ・英語学習支援室の開設。	A		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・学科教育課程表 ・シラバス	・社会人基礎科目分野を新設。 ・当学科の特徴たる「建築設計製図関連科目」や「各種実験演習関連科目」などでは、建築分野での実務者たる建築家や実務者が専任教員や非常勤講師を務めている。これら教員講師からの直接指導の機会を通じて、学生に生きたキャリア教育の機会を提供している。 ・当学科の同窓会組織「泉会」との連携を密にしている。例えば、毎年11月から12月にかけて、泉会の全面協力のもと、主に学科3年生を対象とした学科独自のキャリアイベントを開き、正規科目内では補いきれないキャリア教育を実施している。	A		
2)学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100 (独自に設定してください)					
3)学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101 (独自に設定してください)					
4)学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102 (独自に設定してください)					
		103					
		104					
		105					